

東京大学での所属学部/研究科・学年(プログラム開始時): 文学部 4年

参加プログラム: 派遣先大学:

卒業・修了後の就職(希望)先: 1.研究職 2.専門職(医師・法曹・会計士等) 3.公務員 4.非営利団体

5.民間企業(業界:コンサルティング会社) 6.起業 7.その他()

派遣先大学の概要

カリフォルニア大学バークレー校。アメリカ西海岸に位置し、サンフランシスコからはBART(電車)で30分程度。カリフォルニアの州立大学であり、世界でも名の知れた名門校。

参加した動機

- ・英語で何かを学ぶという体験をしたかった、それを通して英語力を向上させたかったから
- ・違う国から来た同年代の学生と仲良くなり、文化の違いや考え方の違いを感じたかったから。

参加の準備

①プログラムの参加手続き(手続きにあたってのアドバイスなど)

早め早めの準備をおすすめします。色々な締め切りがあるのでよく確認し、わからなかったら大学の方にお聞きした方が良いです。私は色々な締め切りを逃しそうになってひやひやしました。

②ビザの手続き(ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど)

申請がぎりぎりとなってしまったため大使館での面接予約がとれず、「緊急予約」というのを使いました。書類の用意や大使館に提出するフォームの入力がとても煩雑で時間がかかります。こちらにも早めに準備し、書類などもれがないようにしっかり確認されることをおすすめします。ビザの種類はF1でした。

③医療関係の準備(出発前の健康診断、予防接種等)

何もしていません。

④保険関係の準備(加入した海外旅行傷害保険・留学保険等)

クレジットカード付帯の保険があるからいいと軽く考えていましたが、しっかり海外旅行傷害保険などに入っておいた方が安心だと思います。

⑤留学にあたって東京大学の所属学部・研究科で行った手続きなど(履修・単位・試験・論文提出等に関して)

私のとっていた科目の中では、試験が受けられなくなるという授業はなかったのですが、レポートの直接提出ができない、出席点が減点されるという授業では教授に相談し指示を頂きました。

⑥語学関係の準備(出発前の英語レベル・語学学習等)

少し英会話学校に通い、英語を話すのに慣れてから行きました。

⑦日本から持参した方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど

学習・研究について

①履修した授業科目のリスト(授業を履修した場合)

※そのうち、帰国後東京大学で単位認定の申請を行ったものに●をつけてください。

Summer Conflict Resolution Training Intensive

②プログラムの概要(授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている内容等)

授業は月・火・木・金の9時から16時、お昼休憩の他に10分くらいの休みが何回かあります。

予習は、事前に3冊の文献を指定されますが必須ではありませんでしたし、授業でそれが扱われることもありませんでした(私の見た感じでは事前にそれを読んできている人もほぼいないようでした)。

授業はディスカッションも多く、全体的にインタラクティブな感じでした。ノンネイティブの生徒がほとんどで、先生はノンネイティブにもわかりやすい話し方をするように努めてくださっていました。

宿題は、毎日 Journal(今日感じたことを書くもの)をメールで提出するのと、2回ほど次回ディスカッションについての概要について書かれた紙を渡され読んでくれるように言われただけでした。

Conflict についてのことでしたので、国家間の紛争について多く扱われるかと思っていたのですが、実際は個人間での争いをどのように解決していくかという話が多かったです。

テストはなく、最終週にA4で8-13枚のレポートの提出が課されました。

④学習・研究面でのアドバイス

せっかく来たのだから、授業内外を問わず、色々な人と積極的に話すのが大切だと思います。アジア人はアジア人がかたまりがちですが、クラスのみならず話そうにするといいと思います。

⑤語学面での苦勞・アドバイス等

ネイティブの発言は聞き取りづらいことも多かったです。またスピーキングよりもリスニングの方が大変だと感じました(リスニングができないと自信を持って話すこともできないです)。

生活について

①宿泊先(種類(寮・ホームステイ・ルームシェア等)、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など)

大学から10分ほどのところにある、シェアアパートメントで暮らしていました。パークレーの中にある寮に滞在したかったのですがどこも既にいっぱいになっていてとても焦りました。パークレーの事務局に、色々なところの紹介をお願いしてみつけたところにしました。

②生活環境(気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法(海外送金・クレジットカード)など)

「サンフランシスコ」はイメージですごく暑いと思いこんでいたのですが、予想以上に朝晩は寒かったです。日本の10月・11月くらいの寒さだと思います。こちらに来てから長袖を2枚くらいに買うことになり、ちゃんと調べておくべきだったと後悔しました。

夜は2000くらいまでは明るいですが、それ以降はあまり治安がよくないからなるべく出歩かないようにとルームメイトに言われました。実際は出歩くこともあったのですが、確かにホームレスなども多く雰囲気はそんなに良くない感じでした。

食事はパークレー構内にたくさんのレストランがあるのでお昼はそこで、夜はパーティをすることなどが多かったで簡単に作ったりピザを買って食べたりしていました。お店はたくさんあります。最初は料理をしていましたが途中からは朝を除いてほぼ外食になりました。

お金はクレジットカードを現金を持って行きました。意外と使ったので途中でカードの上限をあげました。日本の銀行のカードは海外で使えないものが多いので、インターナショナルカードにして海外でも引き出せるようにしておくか、クレジットカードを複数枚持って行ったほうがいいのかもかもしれません。

③危機管理関係(留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など)

治安については上述のとおりでした。医療機関にはお世話になりませんが医療費が高額とのことだったので、病気やケガをしないように気をつけました。

④要した費用とその内訳(航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算)

飛行機代往復:10万

授業料:1290\$

家賃:12万(授業一週間から滞在していたため高くなってしまいました)

食費・交通費・娯楽費など:12万くらい

→うちのクラスは仲がよく毎日のようにどこかに行っていたので結構使ってしまいました。

⑤奨学金(受給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など)

なし

⑥学習・研究以外の活動(スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末の過ごし方など)

毎日授業後にみんなでパーティをしたり、飲みに行ったりしていました(積極的に色々な人と仲良くなったこともあって毎日色々な人と交流ができました)。また授業がない日は同じく有志でサンフランシスコ観光やスタンフォード大学の見学に行ったりしていました。レンタカーでヨセミテ・ラスベガスに観光も行きました。

派遣先大学の環境について

①参加学生へのサポート体制(語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等)

特にお世話になることはなかったですが、留学生向けの事務局があるので困ったことがあれば助けてくれるようです。

②大学の設備(図書館・スポーツ施設・食堂・PC環境等)

キャンパスはとても広いですし、図書館はじめ一つひとつの建物は大きいです。博物館もありました。構内はwi-fiが通っています。私は利用しませんが10\$でスポーツ施設が自由に使えるようでした。レストランもたくさんありました。

プログラムを振り返って

①プログラムの意義、参加を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感

大きく3つの変化がありました。

1. 他国への見方が変わったのと興味が高まりました。

特に中国についてです。中国人の子たちと一緒にいてお話しをして同じアジア人という共通性を実感できましたし、日本という国のことを予想以上に知っていて好きでいてくれて嬉しく思いました。(こういう留学に来る中国人というのはハイクラスな方々が多いので、国全体としては例外ではあると思いますが)

またいろんな国の人と仲良くなったので、それらの国のニュースをより自分に引きつけて考えられるようになりました。

2. 日本人アイデンティティが強まりました。

外国人たちと一緒に行動していると、日本と違うなと思うところがたくさんあり、どうしてそうするのかということを知ったり、また日本ではどうするかということの説明していく中で自文化への意識が高まり同時に日本の文化の良い所を再発見できました。(これは、日本人や日本を好きって思っただけという気持ちも結構あり、「日本人代表として」という意識で動いたことも結構関係していると思います。)

3. 私はなんて日本語を自由に使いこなせるんだろーと思いました。

英語不自由だなというより、自分はなんでこんな日本語上手なんだろー、と思いました。日本語を操れるということは、当たり前ですがとても便利なことだと感じ、同時に、自分の意見をよりよく伝えるために英語は一層頑張りたいなと思いました、また忘れかけている中国語(第二外国語でした)も再び学習しようと思いました。

②参加後の予定

卒業後はコンサルティング会社に就職します。

③今後参加を考えている学生へのメッセージ・アドバイス

短期ながらも、海外の学生と一緒に学び交流することで、とても刺激的な体験ができると思います。ぜひ参加してみるといいと思いますし、行ったからには積極的に行動していくことが大切だと思います。

その他

①準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物

②その他東京大学のホームページ・出版物等に掲載してよい留学中の写真があれば添付してください。

東京大学での所属学部/研究科・学年(プログラム開始時): 経済学部経済学科 3年

参加プログラム: 派遣先大学: UC Berkeley

卒業・修了後の就職(希望)先: 1.研究職 2.専門職(医師・法曹・会計士等) 3.公務員 4.非営利団体

5.民間企業(業界: 商社) 6.起業 7.その他()

<p>派遣先大学の概要 University of California Berkeley Summer Session E (3 weeks)</p>
<p>参加した動機 アメリカの大学で行われている講義がどのようなものか受講してみたかった 英語だけの環境に自分を置いて会話能力の向上を図った</p>
<p>参加の準備</p> <p>① プログラムの参加手続き(手続きにあたってのアドバイスなど) 履修登録は早めにしましょう。遅くなると授業には定員があるので取りたい授業が取れなくなる恐れがあります。</p> <p>② ビザの手続き(ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど) F-1 ビザを申請します。ビザの申し込みの際には、書類を忘れないのはもちろんですが、当日大使館には同じくビザ申請の長蛇の列が来ているので受付時間の1時間前には行きましょう。</p> <p>③ 医療関係の準備(出発前の健康診断、予防接種等) 歯科関連の治療は済ませておいた方がいいです。 アメリカの医療費はかなり高額です。</p> <p>④ 保険関係の準備(加入した海外旅行傷害保険・留学保険等)</p> <p>④ 留学にあたって東京大学の所属学部・研究科で行った手続きなど(履修・単位・試験・論文提出等に関して) ゼミの担当教官に短期留学の概要を話してサインをもらいました</p> <p>⑤ 語学関係の準備(出発前の英語レベル・語学学習等) 僕は特にしませんでした。TOEFLのスコアを持っていないなら受けておくといいと思います。</p> <p>⑥ 日本から持参の方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど 緑茶の粉末を持っていくと向こうでもおいしい緑茶が飲めます Officeが入ったPC必須(レポート用)</p>
<p>学習・研究について</p> <p>① 履修した授業科目のリスト(授業を履修した場合) ※そのうち、帰国後東京大学で単位認定の申請を行ったものに●をつけてください。 San Francisco Detective story Alcatraz American Visual Culture</p> <p>② プログラムの概要(授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている内容等) 特に印象に残っている授業は、アルカトラズ島に研修に行ったことです</p> <p>④ 学習・研究面でのアドバイス とにかくたくさん量を読むこととなります。辞書をいちいち使わずともざっと流し読みできるようになっておきましょう。</p> <p>⑤ 語学面での苦勞・アドバイス等 とにかく大量の予習が課されます。また、最終試験もしっかりと勉強しなくてはならないので、頑張りましょう</p>
<p>生活について</p> <p>① 宿泊先(種類(寮・ホームステイ・ルームシェア等)、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など) SSINNという日本人が経営する宿。 かなりきれいでご飯も美味しい。大成功でした。</p> <p>② 生活環境(気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法(海外送金・クレジットカード)など)</p>

今回は短期なのでお金は日本から 10 万ほど持っていき、高額の買い物(ヨセミテへのツアーなど)はカードで決済しました。

③ 危機管理関係(留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など)

Berkeleyは治安はいいですが、近くのOaklandやRichmondは現地在住の日本人すら決して近づかない場所です。行かない方が賢明です。

④ 要した費用とその内訳(航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算)

航空賃:90000 マイレージ

授業料: \$ 2400~ 教科書代: \$ 50~ 宿泊代: \$ 2700 総額 \$ 5000 前後

⑤奨学金(受給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など)

⑥学習・研究以外の活動(スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末の過ごし方など)

週末はサンフランシスコ、ヨセミテ、サクラメントなど周辺の都市を回っていましたが、最終週は試験勉強に追われ、出歩く暇はあまりありませんでした。

派遣先大学の環境について

①参加学生へのサポート体制(語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等)

②大学の設備(図書館・スポーツ施設・食堂・PC環境等)

食堂はない。外で買って食べるか、カフェで食べるか。

Wi-fiがキャンパス内では基本的にどこでもとんでいるので便利。

プログラムを振り返って

① プログラムの意義、参加を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感

この留学を通じて、自分の意見を臆せずに堂々と英語で言えるようになったと思います。

日本ではなかなか触れることのできないネイティブのナチュラルな英語をたっぷり浴びることが出来ました。

自信はかなりつきます。

② 参加後の予定

9月中旬からワシントン大学へ1年間の留学

③ 今後参加を考えている学生へのメッセージ・アドバイス

授業を取りすぎると、最終週に大変な目にあいます。

3コマくらいが理想でしょう。

最後までやり遂げればかなり力はつきます。頑張ってください。

その他

①準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物

②その他東京大学のホームページ・出版物等に掲載してよい留学中の写真があれば添付してください。

東京大学での所属学部/研究科・学年(プログラム開始時):教育学部4年

参加プログラム:Berkeley Summer Session

派遣先大学:UC Berkeley

卒業・修了後の就職(希望)先: 1.研究職 2.専門職(医師・法曹・会計士等) 3.公務員 4.非営利団体

⑤.民間企業(業界:放送) 6.起業 7.その他()

派遣先大学の概要

UC Berkeley は米国西海岸にキャンパスを構える米国有数の大学。同じカリフォルニアにあるスタンフォード大とは学業、スポーツ活動などにおいてライバル関係にあるらしい。

参加した動機

学生最後の夏休みを有効に使いたかった。英語をとりあえず鍛えなおさないと、英語圏に留学したいと思った。なかでもパークレーのリベラルな雰囲気が魅力的だった。

参加の準備

① プログラムの参加手続き(手続きにあたってのアドバイスなど)

大学のHPで見つけた。手続きは早めにするをおすすめします。

② ビザの手続き(ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど)

とにかく早めに。ビザを自分で一から取得するのは色々大変で勉強になった。

③ 医療関係の準備(出発前の健康診断、予防接種等)

歯科は保険適用外になるので、大学の保健センターで歯科検診を受けてから行きました。また常備薬を持っていった。

④ 保険関係の準備(加入した海外旅行傷害保険・留学保険等)

損保ジャパンの海外旅行保険に加入。

⑤ 留学にあたって東京大学の所属学部・研究科で行った手続きなど(履修・単位・試験・論文提出等に関して)

夏学期に必修がなく単位もすでに結構とっていたので、7月の頭からではあったが参加できた。

⑥ 語学関係の準備(出発前の英語レベル・語学学習等)

出国前はTOEFLiBT92くらいだった。会話が特に苦手だったので、大学の英語の授業をとるなどして話す機会を作った。

⑦ 日本から持参の方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど

寮に入っていたので、特に必要なものはなかった。大学や寮周辺には店が充実していたので大抵のものは現地で買えると思う。

学習・研究について

①履修した授業科目のリスト(授業を履修した場合)

※そのうち、帰国後東京大学で単位認定の申請を行ったものに●をつけてください。

History of Art(美術史・4unit)

ESL(英語・4unit)

②プログラムの概要(授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている内容等)

美術史の授業は単純に興味でとったのだが、専門外ということもあり最初は教授や学生の喋っていることがほとんど理解できなかった。後半になったら用語や文脈がわかるようになりなんとかついて行けたと思う。

英会話の方はノンネイティブ前提で、カリフォルニアの文化や歴史を題材にして、ディスカッションやスピーチ、ライティングを通して勉強した。6週間毎日のように会っていたのでクラスメイト(中国、台湾出身者が多かった)とはかなり仲良くなった。

④学習・研究面でのアドバイス

週末に遊びすぎて授業に遅れをとったことがあったので、学習は計画的に行うことをおすすめします。

⑤語学面での苦勞・アドバイス等

特に美術史の授業ではネイティブのクラスメイトの英語が聞き取れず結果議論にうまく参加できないということが多かった。もっと、早い喋り言葉を聞き取る学習をしておけばよかったと思う。

生活について

① 宿泊先(種類(寮・ホームステイ・ルームシェア等)、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など)

大学の寮に泊まった。キャンパスまで歩いて 15 分程度(シャトルバスも出ていた)、一定の食事ポイントがついて家賃は 2000 ドルくらいだった。大学の HP から申し込んだ。

② 生活環境(気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法(海外送金・クレジットカード)など)

気候は涼しく、雨もめったに降らずからっとした毎日だった。夜は結構涼しいので長袖を着ていた。寮やパークレー周辺は治安が決して良くなく、滞在中に知っている限りで2件強盗があった。

③ 危機管理関係(留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など)

先述したが治安はあまりよくなく、寮の留学生在がホールドアップにあったこともあった。基本的に夜は少人数では歩かないようにしていた。

④ 要した費用とその内訳(航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算)

航空費1800、家賃2100、授業料4200、その他手続き費用などで8500ドルくらい使った。

⑤ 奨学金(受給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など)

JASSO の奨学金を受給させていただいた。月8万円で、6週間だったので二月分いただいた。

⑥ 学習・研究以外の活動(スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末の過ごし方など)

10ドルでジムが使い放題だったので暇なときは通っていた。週末はサンフランシスコ(電車で3~40分程度)を中心にカリフォルニアを観光した。

派遣先大学の環境について

① 参加学生へのサポート体制(語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等)

充実していた。ただ安全面に関しては自分で何とかするしかないと感じた。

② 大学の設備(図書館・スポーツ施設・食堂・PC 環境等)

wi-fi がキャンパスの大抵の場所で使えたので、スマホが活躍した。

プログラムを振り返って

① プログラムの意義、参加を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感

英語で話しかける度胸が身についた。また色々な国の人と友達になれたことが一番大きな収穫かと思う。また授業を通してアメリカの大学でもなんとかかやっていたいけそう、という手ごたえを得た。

② 参加後の予定

来年からは放送局で働くため、海外に行くチャンスは減るかもしれないが、留学のチャンスなどあれば積極的に狙っていきたい。

③ 今後参加を考えている学生へのメッセージ・アドバイス

Summer Session の場合、語学学校への留学とは違い、向こうの大学の授業や雰囲気存分に味わうことができるのでおすすめです。また、どうせ参加されるならできるだけ長期間滞在することをおすすめします。最長で10週間のセッションがあったので、そっちに参加したかったと後悔しています。

その他

① 準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物

大学の HP

② その他東京大学のホームページ・出版物等に掲載してよい留学中の写真があれば添付してください。

東京大学での所属学部/研究科・学年(プログラム開始時): 教養学部文化人類学科4年

参加プログラム: Berkeley Summer Sessions

派遣先大学: カリフォルニア大学バークレー校

卒業・修了後の就職(希望)先: 1.研究職 2.専門職(医師・法曹・会計士等) 3.公務員 4.非営利団体

⑤.民間企業(業界:) 6.起業 7.その他()

派遣先大学の概要

非常に自由な校風で、学生たちも自由そうです。Berkeley Time という時間が存在し、授業は基本的に 10 分開始が遅れます。周囲の治安もよく、のびのびと勉強やその他の活動に集中できます。

参加した動機

もともと海外の大学院に進学することを考えており、学部時代にその体験をしてみることで、海外留学が本当に自分のやりたいこととマッチしているかを確認するため。

参加の準備

①プログラムの参加手続き(手続きにあたってのアドバイスなど)

宿泊場所の確保、授業登録などはすべて自分で行います。国際交流課にアドバイスを求めることはできますが、作業するのはすべて自分です。正直面倒な部分も多いですが、いい経験にもなります。

②ビザの手続き(ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど)

手続きには時間がかかります。2 カ月くらい前からの準備をお勧めします。

③医療関係の準備(出発前の健康診断、予防接種等)

特に何もませんでした。アメリカは予防接種の必要はないと思います。ただ、救急車を呼ぶのには高額な費用がかかりますので、注意が必要です。

④保険関係の準備(加入した海外旅行傷害保険・留学保険等)

生協の 1 か月用の保険に入りました。

⑤留学にあたって東京大学の所属学部・研究科で行った手続きなど(履修・単位・試験・論文提出等に関して)

特にありません。

⑥語学関係の準備(出発前の英語レベル・語学学習等)

TOEFLiBT では 95 点でした。特に留学に向けて行った準備はありません。

⑦日本から持参の方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど

宿泊するところ、観光するところの治安は事前にチェックした方がいいです。日本では想像できないくらい治安が悪いところがあります。

学習・研究について

①履修した授業科目のリスト(授業を履修した場合)

※そのうち、帰国後東京大学で単位認定の申請を行ったものに●をつけてください。

PACS 159 Summer Conflict Resolution Training Intensive

②プログラムの概要(授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている内容等)

教科書は指定されていましたが、特に予習の必要はありませんでした。また、授業は講義形式ではなく、利害の対立する複数の団体の仲介を実際に小グループに分かれて行う、という作業が中心であったため、記憶することや復習はありませんでした。ディスカッションがメインであったため、クラスの人とはすぐ仲良くなることができます！評価方法は 8~15 ページのレポートですが、最後の 1 週間はサポートを書くための期間で、授業自体はないので、集中してレポートに取り組むことができます。

④学習・研究面でのアドバイス

ディスカッション中心なので、勉強量というよりは、その場でいかに積極的に授業に取り組むことができるかだと思います。

⑤語学面での苦労・アドバイス等

周りの人々の英語レベルは高いため、こちらがリスニングすることにはあまり苦労がありません。また、つたない英語でも、周りの人はなるべく理解してくれようとするので、遠慮なく話しましょう！

生活について

- ①宿泊先(寮・ホームステイ・ルームシェア等)、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など
向こうの大学から紹介された宿泊先はどこもいっぱいであったため、東大からの学生 4 人でシェアハウスをしました。家はネットで大学の近くのものを探しました。
- ②生活環境(気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法(海外送金・クレジットカード)など)
基本的に困ることはないです。クレジットカードは持って行った方がいいと思います。
- ③危機管理関係(留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など)
場所によっては治安が悪いので、よく調べておく必要があります。
- ④要した費用とその内訳(航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算)
訳 45 万円(航空券 15 万円、授業料など 12 万円、宿泊費 8 万円、その他 10 万円)
- ⑤奨学金(受給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など)
JASSO 8 万円を支援していただきました
- ⑥学習・研究以外の活動(スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末の過ごし方など)
授業で仲良くなった友達と観光したり、ホームパーティを行ったりしました。

派遣先大学の環境について

- ①参加学生へのサポート体制(語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等)
あまり活用していないので、わかりません。申し訳ないです。
- ②大学の設備(図書館・スポーツ施設・食堂・PC 環境等)
日本で想像するような大きな食堂はありません。ジムは大きなものがあります。大学内では Wi-fi が使えますが、建物の外を出ると使えなくなります。

プログラムを振り返って

- ①プログラムの意義、参加を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感
海外の優秀な学生との交流を通じて、自分はまだまだである、と感じました。英語力はもちろんのこと、ディスカッションの技術や専門分野の知識などでも気おくれを感じてしまいました。これからの自己研鑽のモチベーションは上がると思います。
- ②参加後の予定
海外の大学院に進学することを考えているので、英語の勉強などを行います。
- ③今後参加を考えている学生へのメッセージ・アドバイス
よく、1か月の留学では何も変わらない、という話を耳にしますが、実際の英語力などに大きな変化はなくても、自分の意識変革という意味では得るものはとても大きいです。今後のキャリアや自分のやりたいところにも大きな影響を与えるでしょう。なので、迷ったら行ってみることをお勧めします！

その他

- ①準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物
特に参照していません。
- ②その他東京大学のホームページ・出版物等に掲載してよい留学中の写真があれば添付してください。